

令和5年度 長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会 議事録

令和5年7月25日(火) 午後1時30分から、木曾合同庁舎講堂において令和5年度長野県食と農業農村振興審議会 木曾地区部会を開催しました。

1 出席委員 五十音順 (敬称略)

伊藤 兼彦 委員 木曾郡農業委員会協議会会長
大久保和典 委員 木祖村西山地区活動組織代表
田中 芳男 委員 木曾農業協同組合営農アドバイザー
田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長
都竹 亜耶 委員 長野県農村生活マイスター木曾支部長
富井 聡美 委員 女性農業委員 (消費者)
野口 廣子 委員 直売所夢人市、木曾すんき愛好会
村田 布紗子 委員 木曾郡学校栄養士会会長
横井 勝美 委員 木曾優良子牛パワーアップ協議会会長和

2 次第及び議事録

(1) 開会

(2) 渡邊 卓志 木曾地域振興局長 あいさつ

(3) 部会長選出

部会長 田屋 万芳 委員 木曾農業協同組合代表理事組合長

(4) 会議事項 (議長 田屋 万芳)

【田屋部会長あいさつ】

この会議は地域の農業農村の振興策の方向性を探る、大変重要な役割を担っています。皆様のご協力を賜りまして、円滑な運営参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

・梅雨明けして連日猛暑が続いていますが、最近の梅雨はバケツをひっくり返したような雨や、線状降水帯も発生し、集中豪雨による災害が毎年起きている、地球環境がだいぶ変わってきたと思います。

・御嶽はくさいについては本年は木祖村が6月の17日～初出荷となって、開田は6月の28日初出荷となりました。4月、5月が野菜が非常に高値だったため、期待していたが、平年並みの相場に戻った。

これから8月、9月の相場に期待している

子牛市場の方が低迷している3月が安くて、4月も若干反発したけれど、6月の市場は安かった。8月の市場もそんなに期待できないかななどに思っています。

市場をみると、インバウンドが非常に増えてきましたが、外国の皆様はまだ財布の紐が固いうようです。

さて本日は、長野県食と農業振興計画の第5期の5ヶ年計画のスタートにあたります。

昨年までの計画の達成状況と新しいで計画に基づいた、令和5年度の実行計画についてそれぞれ意見を伺いたいと思っています。

委員の皆さんから専門の立場で忌憚のないご意見を賜りたい。

今後、木曾地域の農業が発展するようご協力をお願いします。

木曾郡農業委員会協議会長の伊藤委員に代理者を指名する。

[(1) 令和4年度取組実績について (資料1)] 説明：太田係長
〔質問等なし〕

【(2) 第4期長野県食と農業農村振興計画及び頼話5年度実行計画について】
(別冊概要版及び資料2-1, 2) 説明：太田係長

【質疑応答】

【大久保委員】

令和5年の実行計画の重点取り組み3のところに関係者一丸となった捕獲、環境整備、野生鳥獣被害対策の推進とあります。

ここに鳥獣被害防止対策交付金事業とあるんですけど、これはどのようなものですかね。

【小穴課長補佐】

本事業につきましては推進事業と整備事業の2つがあります。

罾等の購入と、防護柵の資材を購入したり設置をするような事業があります。

各地域に鳥獣対策協議会が作られている。協議会の要望に基づいて、県の方で交付金をもらって、実際に事業を実施している状況になっております。

【大久保委員】

昨年この会議で鳥獣被害の話をしていただけたけれど、その後に、県の担当者と県の専門指導員の方が現地へ来ていただいて、指導していただいた。

そのときは、こういう事業の活用とかではなく、できるだけ個人で対策をとって、どうしても、だめっていうのであれば県も捕獲なり補殺を考えますという話でした。

昨年ぐらいから、木祖村で、事業的なものだと思うが、木祖村で設置してる試験的な段階ですけど、将来のこの地域で村で設置したもので、今年どのぐらい効果があるかというそういう試験的なものもやっている。そういったものにも、県の方が関係してきているのか

【小穴課長補佐】

はい

【大久保委員】

試験的なものなので、どのぐらい効果があるものかと思っている。

西山地域の話をするが、白菜畑で3000㎡5000㎡という面積で一枚の畑を作っているけど、マルチをした後にイノシシが歩きまわって、マルチに全部穴をあけられてしまう。

その大きい面積の畑に4ヶ所、5ヶ所張ってあるマルチに穴が開いています。

それと、トウモロコシがこれからあるので、今、自給的に作っている。キュウリやモロッコについても、サルがいたずらする。

多分これからは、どっちかというところだとサルの方が厄介になってくるんじゃないかと思う。

どうしても山間地での生産になるのでサルは追い払っているが、これは、イノシシだったら割と低い設置で十分だが、サルになると、ネット2メートルでも、それを飛び越えて入ってくる。

できればこれからはサルについて、考えてほしい、高さのあるものをちょっと考えて交付金事業の中で検討していただければと思う。

【小穴課長補佐】

ご意見ありがとうございました。こちらも林務課と一緒に、鳥獣対策チームを立ち上げて対応し、その中で研修会等を開催しています。

サルの関係も、他の地域から同じような情報が上がっているのも、林務課と調整しながら対応を検討して行きたいと考えています。

【大久保委員】

はい、わかりました。

【伊藤委員】

南木曾町では大型の設置檻を、多分、補助金をもらって2基作ってある、非常にサルの捕獲の総数が、30とか、相当数を捕獲しているのも、南木曾町では十分な成果を上げているのでやはり捕獲檻の大型のものを各町村でも検討していただきたい、

【田屋部会長】

はいありがとうございます

大きな捕獲檻の設置にはやっぱり資金的にも結構するんじゃないですか。

【伊藤委員】

金額そのものは、わかりません。非常に捕獲檻は、餌をしっかりと与えて一網打尽に捕獲するという、そういう場合の設定ですから、やはり地域住民が餌の管理をしないといけない。

そこら辺のところをしっかりとできれば、大量に捕獲できる。

南木曾町も非常に鳥獣被害が多くて、イノシシが豚コレラから回復して、イノシシと日本鹿が非常に増えてきていて、田植えした稲を、食べられて皆さん苦労してる。植えてすぐのやわらかい葉を食べるから、その後の成長には問題はないが、多少は影響はあります。

今のところ稲は順調で、今年天候が良いのでしっかりしています。

だからなかなか鳥獣被害がどこの町村でも、非常に大変かなと思っております。

地元の猟友会もいますので、猟友会と役場、関係機関の方と連携していただいて、捕獲をするしかない。

捕獲するのが一番で、柵とかいろいろやってもね、頭数は減るわけじゃない、捕獲するってことがやはり一番大事なので、地元の猟友会の皆さんにね、獲っていただくってことが大事になる。

【小穴課長補佐】

補足させていただきます。

今年のある地域ですけども、ほかの地域で捕獲檻をですね、管内で導入させていただいたときに、一件当たり約90万円ぐらいになってます。

補助については、ポイント制になっており、この地域の取り組みにあう形をとっているのも、必ずしも同じ補助をするわけではない、そういった導入事例が今年実際としてあります。

【田屋部会長】

どちらにしてもサルだけは非常に厄介な問題で、トウモロコシもそろそろ収穫時期と思っていたら、ボス猿が見ていて取れと行って、もう群れ全部が来てやられちゃうみたいな話もあって、これだけは本当に深刻な問題ですので、行政の対策も、よろしくお願ひしたい。

【田中委員】

小水力発電について、現在どんなふう利用されているのか、簡単に紹介お願いします。

【小出課長補佐】

補助事業で整備された施設であれば、町村等の公共施設の電気料等に利用されます。

他に民間企業で整備した農業用水を使った小水力発電施設であれば、民間企業独自で利用できません。

【田中委員】

電力を販売するとかそういう目的よりもむしろ、地域の中で自給するような形ですか。

【小出課長補佐】

考え方はそういうことになります。

中部電力に販売するけれども、その電気料は地域の公共施設等に利用される。

【横井委員】

関連して上松町の私の地区でも小水力発電所が完成しているが、当初の目的は売電し地区のために利用しようと計画されていましたが、まだ売電ができない状態にいる。

これは、施設用地に山林で20名の共有地があり、その中の1人から承諾が得られず登記ができないため売電に至っていない。

これから始める場合は、そういう点に十分注意してやる必要がある。

それから畜産クラスター事業の中で、いわゆる機械のリース事業があるわけですが、これは今でも認定農業者でないと、利用できないですねということですか。

【小穴課長補佐】

畜産クラスター計画を各町村毎に作っていただいていますので、計画の中で認定農家に指定をしていただく形になっております。

基本的には、主要な担い手になっている方々であるので認定農業者が多く導入している形にはなっています。

【横井委員】

認定農業者でない場合は参加できないってことですね。

【小穴課長補佐】

そうです、認定農業者になっていただく形をとってなっている。

ご心配でしたら役場又は、農業農村支援センターの方にご相談いただければ、対応等をさせていただきます。

【横井委員】

もう一つ、生産基盤拡大事業とは、具体的にどんな事業になるのか。

【小穴課長補佐】

これにつきましては、増頭奨励金というもので1頭当たりお金が出るというものです。

【田屋部会長】

それでは続きまして、審議事項の3番目の全体討議に入りたいと思います。

ここまで事務局からの説明等々を踏まえて、各委員さんからそれぞれの専門分野の立場で、ご提言や意見をいただきたいと思います。

長野県全体の政策体系について、また、地区別の計画それぞれにつきましてご意見をいただきたいです。

まず最初に、県の施策の政策体系についてご意見を伺いたいと思います。

時間制限もありますので、一人1、2分程度でお願いします。

【大久保委員】

県の方にも、いろいろとご尽力いただいているところですけど、どうしてもやっぱり少子高齢化、作付けをあきらめてしまう人が大変増えているので、地域と行政の方で一体となって考えていってほしい。

【伊藤委員】

木曾の農業は小規模である。これを向上させることは非常に大変なことである。

今現在、中心になってやっている人が、70代前後の人が中心になっている。

いずれできなくなる時期がくる。私も老体に鞭打ってやっているが、獣害被害が非常に大変増えている。どこへ行っても、結局山際の人たちが、特にひどい、先に農業をやめてしまい、そうすると今度はどんどん町の中まで被害が及んでくるから、そこら辺をどういう具合にして、防ぐかということは、行政の方と民間の方で、いい知恵を出していただいて、何とかしないと本当にもう何も作物ができない、そういう時代がもうすぐ来るようで非常に危惧している。

下手をすると檻の中で作っているような感じが今見受けられる。

本当にこれについて、徹底的に取り組まないと、作物が作れない。

収穫前には必ず動物が来る。そこら辺を徹底して、みんなで防御するような、体制作りをお願いしたいと思います。

【都竹委員】

重点事項4の部分で、木曾ならではの食による地産地消というところで、やはり木曾地域は農繁期がすごく短い中で過剰供給で、値崩れしてしまう中で、いかに加工をして、農業者さんが年間通じて収入を得られる仕組み作りのハードの部分のバックアップについて行政として大事じゃないかなと感じております。

木曾ならではの食材を扱う店舗と連携するという時点で木曾地域の特色ある農産物であったり赤かぶとかそれぞれ、どこに行けば買えるかという、アクセスが今すごく曖昧になってきている部分がある。旅館でも、あれば買いたいけれども、どこで買えばいいかわからないという声は多々あります。せっかく新しい飲食店を作られても、個々の農家さんがPRをするという努力はしないので、そういった部分でサポートしていただいて、どこで誰が作っているか、山菜も誰がどれぐらい供給できるかって言うと、資源としてより産業化していけるのではないかなと感じております。

小中学校を対象とした食育事業なんですけれども、田植えが木曾町に関してはできない。授業はカリキュラムできないところが出てきていて、そこはやはり文科省の部分もあるので、全てがここで解決できることではないんですけれども、一つの声として、都会からの移住PRとして、木曾地域の学校に来たのに、田植えをしないで、パソコンの授業をしているというよりは、地域としての特性を学習とかに何かにかかして、今の都会の子が鮭の切り身が泳いでると思っているような子が、木曾で育ってしまうのは何か悲しいような気がしますので、そういった部分の支援っていうところも食育事業で活用していただければいいかなと感じました。

【田中委員】

まず一点目は、水田作に関する事で、今、私の村の中を回ってみると、急に耕作をやめた水田が出てきた、その理由としては、高齢化という、全て終わってしまうんですけれども。

結構、農作業の受委託が進んでいて、水管理さえすれば高齢になってもできないことはないんですけれども、一つ大きな理由の一つとしては畦畔管理が、木曾は畦畔率が非常に高い、のり面が非常に高いところが多い。

そういうところの草刈りを嫌ってしまう。

畦畔をカバーするような資材もあるが、結構、負担が大きいと思う。

それで今県の方でもいろいろと、リモコンの草刈り機を開発をされてるようですので、ぜひそういったスマート農業を推進をいただきたい。

それからもう一つは、休耕した水田を何とか利用するようなこと。

米作りがだめなら、そばもあると思うが、大桑村の地域おこし協力隊の1人の方が麦を少し蒔いているが、水管理する必要がなくて、木曾地域でもできるのか検討していただきたい。

2点目は担い手の問題で、やはり若い人が入ってくると、ありがたいが、20代の若い人が、米作りやってみたくていい、今年からマンツーマンで他の家の水田を利用権設定してやっている。

機械が何もないので、私の機械を使ってもらっている。

そういう若くて意欲があるけど、機械をどうすればいいのか、揃えたら莫大なお金がかかってしまう。中古の農機具をあっせんできるようなこと、例えば農協でできないのか。

難しい問題だと思うが、新規就農するには資金的な問題、機械設備を導入しなければならないなどの問題あり、こうれらを解決する対策が必要かと思えます。

それから、もう一つ、高齢者化って言いますが私も高齢にだけ、高齢者でも馬鹿にしてもらいたくない。

私の周りで一緒に切り花作ってる仲間の人たち、高齢者が多いんですが、非常に生き生きとしてやっている。

農業の生産金額だけを見てもらいたくない。農業生産活動をすることによって、高齢者のボケ防止になる。心身ともに健康になることが期待できる。そういった観点からも、農村社会を維持するための、意義が農業には十分あるということで、理解をしていただきたい。

【横井委員】

木曽の畜産農家も毎年高齢化で減っている状況です。

昨年より7件減少してる。

毎年、減少していくと5年後には半分になってしまう計算になる。

高齢化には勝てないが、何とか現状維持していきたい、

そばや白菜もそうだが、いい知恵があったら出し合いたいと思う。

【富井委員】

重点取組2にあります、ドローンによるカメムシ防除についてです。

6月中旬だと思いが、ドローンの作業を間近で見た。私も4年ほど前までは稲作をやっていたけれど、当時はラジヘリだった。

親が亡くなってから、稲作はやめました。利用権設定を解除して、借りていた土地を地主さんに返して、稲作はやめた。

田中委員がおっしゃったように、畦の草刈りとか、ただ水を見ていれば、いって親に言われて1年間続けてみたんですけど。

作業は大変で、水持ちの悪い田んぼで、水溶剤も効かなくて、小さい田んぼでしたが草刈り作業も大変でした。

ドローンも大きくてびっくりした。作業時間も非常に短時間に終わって、作業者が3人付いていて、短時間でできて、素晴らしい技術だと思った。

もちろん熟練されたオペレーターの方だと思うけれど、スマート農業って言われて何年か経つけれど、機械もそうだが、それを扱う人材育成、オペレーターをこれから大事にしないといけないと考えている。

それで先ほどの獣害の話があったんですけど。

農業新聞を読んでいると、ドローンを使って追い払いみたいなどころをする記事も読んだことがあるので、そういった人材育成についてもこれから考えていくとよいと思う。

本当にサルだけは被害が深刻で、長い2mネットも大変景観も良くないですし、何とかまた違った方法で、獣害対策が取れたら良いと思う。

【村田委員】

学校では教科と連携した食育ということで、先ほど話に出た、御嶽はくさいの授業を木祖村の方で行ったり、米作りを行ってる。学校で穫れたお米を給食で出したり、カブを作って給食や家庭科の授業で使ったり、給食週間で農家の方に協力いただいたりとか、毎日、給食を出すときに食育について発信をしていくとか、各学校の食育のところで、伝えられるように頑張っている。三岳小学校では三岳グルメ工房から地元の食材いただいているので、結構な量の食材は出せている。

今年度、地元の八百屋さんがいなくなってしまう学校もあり他地区の業者の方から持ってきていただいていることもあって、地元の野菜がどんどん減ってきてしまってると感じている。

学校の方も農家さんとの接点があるとよいと思っている。

今年度、食育について学校給食の方で担当していただいて、良い取り組みだと関心を持って取り組んでいる。今後もこういうふうにより進めていくと、いろんな事業ができて良いと思いました。

【野口委員】

木曾の各地域に加工組合があって、始まった当初は25年から30年位前。

どこのグループも高齢化で、後を継いでもらえる新たな人材が入ってこない、もう既に消えてしまった団体もある。

私、入門講座やらせていただいているが、協力隊の皆さんでしょうか、若い人たちが参加しています。

それぞれに興味があって、いろんなことを質問してくれるが、今後この人たちが、一人になるとどうなるかなという心配もある。

その人たちが地元に戻って、地元でまた仲間を増やして今ある団体に新しいメンバーが入るだけじゃなくて、新しいメンバーで、そういう団体を作って、それが行く行くは、後継者のような活動をしてくれば、いいんじゃないかと思っている。

講座の人たちが、木曾の各地から集まってくるので、なかなかその人達のグループで活動しているというのは難しいかもしれないけど、そういう形ができていったらいいと思う。

一年だけで終わらせるのではなくて、できたらグループができて、新しい活動を始めていけるようになったらよいと思う。

スンキに関してですが、なかなか目標はありますけれども、ブームということもありましたけど、なかなか生産が追いつかない。

当初は材料を木曾以外からも入れて、増やしておりました、現在でも松本、塩尻とか、いろんなところから材料を仕入れているが、出来上がったスンキに差が出る実情もあります。ですから、できるならば地元木曾の中で材料が調達できるような、そんな取り組みができればいいんじゃないかなというふうに思う。1人で広い面積で大量に生産するのは難しいので、昔ながらのこじんまりと作れる人たちの人数が多くなれば、それなりの収量にもなるので、何とか地元の木曾産の材料が手に入るような、取り組みになればと思う。そのときに一つ問題になるのが、事業者がスンキの葉っぱがほしいと言って、下のカブはいらないといわれる。そうした場合に、生産者にとっては、せっかく作った野菜が、カブだけが残ってしまい使い道がない、捨てなきゃいけないというのは、とても残念なので、その活用方法、行き先、いろんな方法で加工もあるだろうし、あるいは今までしっかりできる使い道とか、考えていかないと生産が増えていかない。

【田屋部会長】

皆さんから貴重なご意見をいただきました。

JAの立場で説明させていただくと、先ほどの田中委員が言われました。

中古農機のレンタルの斡旋の関係ですね。これも以前からそんな話があったが、もう少し需要がたくさんあれば、検討しようっていう話もありましたが、断ち切れてしまってます。

まだ、その必要性があるようなら、それについて内部で検討していきたい。

それから村田委員の、農業者との接点が必要だって話であれば、いつでも相談していただきたい。木祖村の大きな農家もありますし、農作業体験や見学等相談いただければ対応させていただきます。

それから野口委員のスunkiについては、白菜もそうですけれども、規格をつくって、なるべく個人の差がないように、箱に誰が作ったものか名を付けて出荷してる。やはり市場関係者だとこの人のだったら全然問題ない、というような評価になってきてしまうので、今言うように、この人の名前は、あまりスunkiに良くない、とかじゃなくて、やっぱりみんな一つのまとまりの中で、技術的にも平準化をして、どのカブを使っても美味しいスunkiができると、というようなことも大切かなと思います。

このGIについても、今まだ県下で二つだけで、木曾のスunkiと飯田の市田柿とその二つだけなんで、これブランドでありますから、ぜひ、もっとPR等をして、できる限りのことをしてもらいたいと思っています。

さて、皆さんの木曾の意見がありましたけれども、長野県の施策についての意見について、これだけは言っておきたいということがあれば、いかがですか。

【田中委員】

やはり木曾というと、どうしても山の中でハンデがあると思う。平坦地とは別で、もちろん県の作っていただいた計画については、なにも意義を差しはさむところではないです。

やはりこういった木曾地域ならではの悩みとしては、大区画の圃場が少ない、機械、コンバイン一つとっても、せいぜい4条刈り機械が入るかという状況です。

JAファームで持ってる機械は3条刈り、4条刈りですから、それを超える機械はなかなか入らない。

こういったハンデがある地域にも目を向けていただきたい。

実は昨年度の大桑村の単独の事業で、私の地域に作業道を開けていただきました。

地権者4名で面積的には43a位で、大した面積ではないが自分たちにとっては大した面積である。

作業道ができる前は、人が歩くだけがやつのところで、切り花作るため、動噴を下から60m歩いて背負って行っていた。今はトラクターが入れるようになった。それから、軽トラも上がれるようになった。

おそらく、こんなことは村だからやってもらえたことで、ただ、そういったことを村の財源がそんなにあるわけじゃないと思っている。やはりきめ細かな点にも目を向けていただければありがたいなというふうに思います。

【田屋部会長】

木曾の農業は、無くすわけにはいかない。木曾の農家も減っていて、農地も減っています。

90%以上の森林に囲まれたこの地域の中で、農業をしていくとは非常に大変だと思うけれども、やはり木曾ならではの悩みも多いんです。

例えば南部地区の一等米比率が非常に低いのは、どうしてもカメムシの関係があつて、先ほどのドローンについても、もう少しきちんとした防除をするようにしていただくと、目標とする90%の一等比率も夢じゃないと思います。

またサルについてもですね、やはりさっき皆さん言うように地区全体で本気になって対策をしなければです。

参考でありますけれども生産者は儲からなければ農業の方は、続けていこうという気がなくなつてしまいます。御嶽はくさいにしても、一時は60万ケースも出荷した時期がありました、それが今は30万ケースですから、半分になってしまっています。

そのほとんどは、そばとトウモロコシになってきたんですけども、白菜をやれば、非常に儲かるよ、というような実績があれば、後継者もどんどん増えてくるというような気がしております。

非常に難しいんですけども実は、儲かる儲からないの話ではありません。

国の肥料高騰対策で肥料の高騰した部分の差3割を補填するよということで JA で取扱っていた皆さん全てに1万~2万円返ってきますよっていう通知を全部の農家に出したところ1,200通出しましたが、申請者を集計したところ現在、272件しかないんですよ、だから、8割方は個人消費といえますか、市場に出していない、道の駅にも出していない方々で、自家消費をしてる方がほとんどで、これだとなかなか同じものを作ってる農家にしても儲からないということで、こんなことをすれば、どんどん衰退して行って、持続可能な農業が本当に衰退してしまうと思います。

木曾に限らずですね、日本もそうなんですけどね、非常に農業振興も減ってくるし、高齢化にもなってくる。

また、農地も少なくなり、どんどん世界の農地も砂漠化になってくるよと、日本の人口も2050年にはもう1億を割ります。農地もどんどん減って来て砂漠化するようになる。

また、こんな悪天候が続くということで、非常に10年後、20年後に本当にどうなるのかということで非常に悩ましい状態である。危機感もって、変換期だということで、この国の農業の位置付について話をよくするんですけども、そういうふうにするためにはですね、なんとしても、今、農業に携わっている人が一緒に、またその行政の皆さんと一体化になって、どんどん農業の重要性をPRしてほしい。

このままでは日本がダメになるということをですね、もっとアピールしていけたらと思っています。

【小林所長】

大変貴重な意見ありがとうございました。

今いくつかの項目について意見がだされたと思いますが、そんな中で農業農村支援センターとして取り組んでいること、これから取り組んでいきたいことについて説明させていただきます。

まず担い手、これはもう本当に一番、人がいなければ、どうしようもないことなので担い手の問題については、先ほど説明があつたように、新規就農者については、東京での相談会に行ったり、また相談窓口等のいろんなところで、新しい若い人たちに木曾に来てもらうような取り組みをこれからも進めていきたいと思っています。

また、お話のあつたように高齢の農家の皆さん、木曾の中では多様な担い手として、定年帰農した農家さんですとか、また先ほど野口委員からもありましたが入門講座では、協力隊の若い方、女性の方で、移住してきて3年目、4年目という若い皆さんが半分くらい受講いただいています。そ

ういう皆さんが農業に興味を持って、入門講座を卒業したら自分でも農業を始めて、組合長が言われたように、少しでも直売所に出荷をして、販売に繋がるようなところまでいってほしい。

そういった部分で、すごくいい提案をいただいたのは、入門講座の卒業生がグループを作って、入門講座1年で終わりじゃなくて、グループを作って、また勉強会をすることによって、木曾の農業を盛り上げていこうという方向にもって行ければと、考えているところでもあります。

またスマート農業の関係につきましては、白菜ではアシストスーツも一つですが、負担軽減を図る。若いうちから体を労わって、高齢の方はもちろんですけれども、若いうちからアシストスーツを使ってですね、できるような形も進めていきたいと思ひますし、またドローンの話もありましたし、ラジコン草刈機ですとか、この木曾地域でスマート農業というと、どうしても費用対効果を言うのと、高い機械を入れてもということになってしまうので、個人じゃなくて、共同でやるとか、どのように導入していくかということを考えながら、ラジコン草刈り機等の導入を検討していきたいと思ひます。

また繁殖和牛については、分娩監視システムで牛の体温を図ってスマホで見れるという新しい技術も出てます。

これらの技術を積極的に入れながら、スマート農業をすすめていければと思ひている。

次に、スunkiの関係については、特に今年は認知度向上と販路拡大の二本柱で進めていこうとしています。先ほど提案いただいた、原料の確保、この地域の中で、確保していくということも大きな課題だと思ひますし、カブの利用についても、何人か農家の皆さんから聞いてます。

ぜひそういった部分についても今後、検討を進めていければと思ひています。

それから鳥獣害の問題は、昔からの課題で、本当に難しい問題と思ひています。すぐにこういった対策をとればよいということは、なかなかできないけれども、全国的には良い事例が多くありますので、調べて諦めずに地道に取り組んでいきたいと考えております。鳥獣被害は非常に重要な課題としてセンターとしても捉えているので、ぜひまた皆さんのご協力をいただければと思ひます。

いただいた意見に対して全ての取り組みは説明できませんが、貴重な意見、提言をいただきましてありがとうございました。

【田屋部会長】

ありがとうございました、それでは本日の予定は以上でございます。協議についてはこれで終了させていただきます。

委員の皆様にはですね、慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

これをもって、議長を退任させていただきます。

【小林所長】

委員の皆様、慎重審議いただき、貴重な提言をいただきましてありがとうございました。

いただきました御意見等については、取りまとめて、県審議会へ繋げさせていただきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。